

# 抗菌薬適正使用について ーバンコマイシン注ー

薬剤部

---

当院の院内感染対策講習会（全職員向け）にて発表した内容を一部改編し、概要を記載してお示しいたします。

# バンコマイシン(VCM)って何の薬？

とりあえず抗菌薬よね



MRSAは耐性菌です

VCMが投与されている

→MRSAかも？

→接触予防策が必要！！

MRSAの治療薬ということは、バンコマイシンが投与されている患者からはMRSAが検出されている、あるいはMRSAの検出を疑われているかもしれないということです。

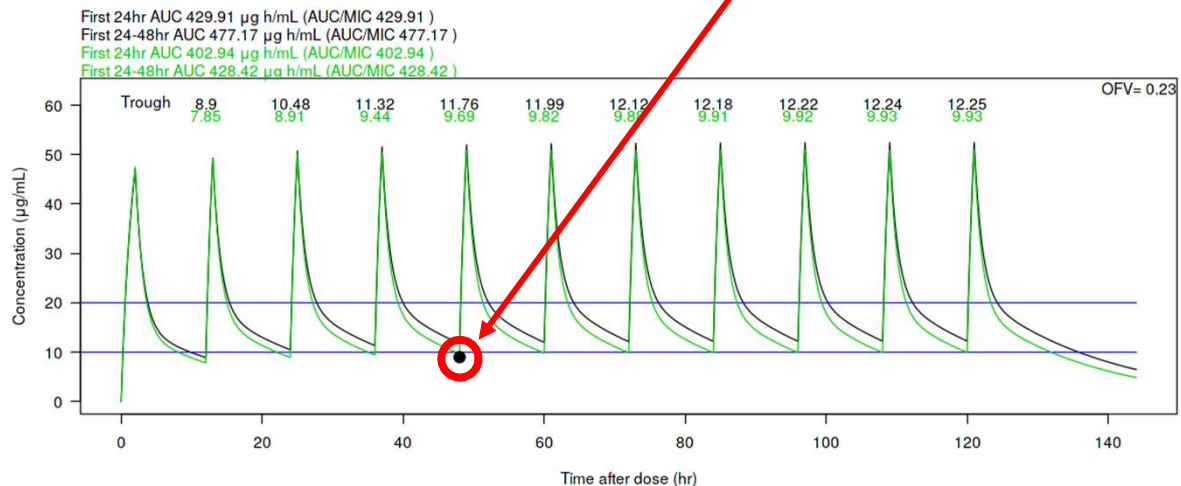
MRSAは耐性菌であり、院内伝播を予防するため、接触予防策が必要となります。このように抗菌薬から逆引きしていくことで院内の感染対策につながることもありますので、抗菌薬の種類を覚えていただくことも感染対策には重要となります。

# VCMとTDM

## TDM(therapeutic drug monitoring)とは

治療効果や副作用に関する様々な因子をモニタリングしながらそれぞれの患者に個別化した薬物投与を行うこと。

VCMでは、治療効果と副作用防止のため、血中濃度のトラフ値を測定する。



日本化学療法学会 バンコマイシンTDMソフトウェア PAT

下の図が実際の投与量シミュレーションの図ですが、バンコマイシンでは一番低い濃度、トラフ値を測定して、このようなシミュレーションを行います。

また、新しいガイドラインでは、ピーク値も測定することが推奨されています。

# トラフ値採血はいつとるのか



投与量設計はトラフ値採血という前提で行っています

採血タイミングがずれてしまった場合は  
必ず当該部署へお知らせください

ガイドラインでは、バンコマイシンの投与前30分以内という指定がされています。ただし、血液透析患者は透析前の採血となります。投与量設計は、トラフ値採血という前提で行っています。採血タイミングがずれてしまった場合は当然計算もずれて投与量が異なったものとなる可能性がありますので、必ずお知らせください。

# VCMと投与時間

指定ないし、30分で



速すぎると、「レッドマン症候群」  
のリスクが上がります



(Front Public Health 2014;2:217)

1000mgまで1時間

500mg増量ごとに  
30分延長



投与する際の投与時間については、特に指定がなければ30分で投与してもいいのでしょうか。こちらガイドラインに推奨される投与時間が書いてあります。1000mg、2バイアルまでは1時間で投与し、以降500mg、1バイアル増量するごとに30分延長すること、とされています。投与速度が速すぎる場合は、図のようにレッドマン症候群\*のリスクが上がってしまいます。

※レッドマン症候群：

バンコマイシンのヒスタミン遊離作用によって引き起こされる反応。顔面、頸部、上部体幹等に掻痒感や灼熱感を伴う紅斑を生じる。

# 投与時の注意点

投与部位痛があるって



対策として

- ・ 投与速度を遅くする
- ・ 濃度を薄める

**5mg/mL**以下にすることが推奨されています  
(1バイアル(500mg)あたり100mL)

VCMは、頻度は  
高くないものの、  
静脈炎を起こす  
ことがあります



患者さんから「点滴が刺さっているところが痛い、あるいは赤い」などの訴えがあった場合は注意してください。また、普段から刺入部は注意して観察してください。バンコマイシンは、頻度は高くないものの、静脈炎を起こすことがあります。

治療効果のため  
副作用予防のため  
耐性菌予防のため

抗菌薬の適正使用にご協力お願いいたします

